

参考

**労働災害（休業4日以上・会員事業場）
－12次防（5年間）・13次防（4年間）の比較－**

13次防（平成30年～令和3年までの4年間）における休業4日以上の死傷者は、1年平均で140.8人発生しており、12次防（平成25年～同29年までの5年間）の1年平均138.8人に比べ2.0人増加している。

一方、死亡災害を見てみると、13次防では、4年間で15人が亡くなっていますが、1年平均では3.8人と、12次防の1年平均4.0人に比べ0.2人減少している。

(単位：人)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	12次防 平均	H30	R1	R2	R3	13次防 平均
死傷	151	158	141	117	127	138.8	125	156	145	137	140.8
死亡	3	2	5	7	3	4.0	3	7	4	1	3.8

**港湾労働安全強調期間（7月～9月）に発生した死亡災害（会員事業場）
－12次防（5年間）・13次防（4年間）－**

港湾労働安全強調期間（7月～9月）に発生した死亡災害は、下表のとおり12次防期間中4人、13次防期間中4人である。

発生日時		発生場所	性別	年齢	雇用形態	職種	事故の型	起因物	概要		
平成25年	8月13日 (火) 16:20頃	本船 デッキ	男	48歳	日雇	作業員	はさまれ・巻き込まれ	揚貨装置	冷凍貨物の揚荷のため、岸壁に仮置きしていた40フィート実入り22トンのコンテナを揚貨装置でデッキのツイストコーン上に積み戻す作業を4人が誘導ロープで行っていたところ、本船の揺れ及び途上のスタンションで引っ掛けりが外れた反動でコンテナが振れ、1人が鋼鉄製オイルタンクとの間にはさまれた。		
	8月28日 (水) 8:40頃	船	男	50歳	常用	玉掛者	はさまれ・巻き込まれ	揚貨装置	揚貨装置を用いて船から本船へ鋼材コイルを積み込んでいたところ、キーコイル2個を地切りした際、突然沖側に振れ、船の側壁との間に退避していた玉掛者がはさまれた。		

平成26年	9月1日 (月) 15:15頃	本船 デッキ	男 42歳	日雇	作業員	飛来・ 落下	揚貨装 置	原木の揚げ荷役をグラブバケットで束ねてつかみ、揚貨装置運転者と2名で行っていたところ、そのうちの一本がはみ出してハッチコーミングに引っ掛けられ、外れたときに原木が振れてハッチ口と壁との間にいた被災者に当たった。
平成29年	9月15日 (金) 14:10頃	倉庫 土場	男 55歳	常用	作業監 督	はさま れ・巻 き込まれ	フォー クリフ ト	倉庫の土場において、フォークリフトによるコンテナ搬送作業の誘導を行っていた被災者が、待機中のトラッククレーンに構内へ進入するよう伝えに行つた後、荷降ろしのために向きを変えようと旋回していたフォークリフトの後部と接触し、倒れたところを当該リフトの後輪で轢かれた。
平成30年	7月20日 (金) 8:40頃	船艙内	男 21歳	常用	玉掛け者	飛来・ 落下	鋼材	埠頭に接岸した内航船の船倉で、岸壁に設置したクローラクレーン（吊上げ過重150t）を用いて7本組に結束したH形鋼（1本の長さ6m、重量約84kg）を3束にまとめて荷揚げ作業中、吊上げていた鋼材が落下し、吊荷の下にいた被災者に当たった。
	8月15日 (水) 20:38頃	石炭船 積岸壁	男 60歳	常用	監視員	おぼれ	石炭 運搬船	被災者が岸壁において、石炭の運搬船接岸に伴う係留作業中、ヒープラインを拾おうとした際に海中に転落した。
令和元年	8月14日 (水) 12:10頃	ターミナル内	男 44歳	常用	運転者	転倒	ストラ ドルキ ヤリヤ ー	ストラドルキャリヤーによりコンテナの運搬作業中、荷を積載していない状態でストラドルキャリヤーが、右折したところ、ストラドルキャリヤーごと左側に横転、運転席にいた被災者が胸を強打した。
令和2年	8月19日 (水) 9:00頃	着岸コン テナ船内	男 29歳	常用	ラッシャ ー	墜落 ・転落	ステ ージ	コンテナ船内のコンテナをガントリークレーンで地上に降ろす作業中、コンテナ上に残ったスタッカーを回収しようとしていた被災者がステージから5.2m下の本船デッキに墜落した（推定）。

※ 上記の死亡災害については、協会ホームページの中の「災害データ検索 versionⅡ」から、さらに詳細な情報を得ることができます。